



沖縄公演

パレット市民劇場
(那覇市久茂地1丁目1-1
パレットくもじ9階)

10/12(土) 15:00開演(14:30開場)
10/13(日) 13:00開演(12:30開場)



～精神病院つばき荘の第6病棟

院長の山上は入院患者の高木に説得を試みていた。原発事故対策で、理事長と対立している職員たちを抑えこむため、最古参の高木を仲間に取り込もうとしていたのだった。

自分の存在を賭け、頑として山上の説得を拒絶する高木であったが、山上は最終手段として、高木に保護室への隔離を言い渡す。

そこへベテラン看護師の浅田が現れて・・・



くるみざわ しん(劇作家、精神科医)

「北区つかこうへい劇団戯曲作法塾」「伊丹想流私塾」を経て2007年に『うどん屋』で teatro 新人戯曲賞佳作を受賞。劇団「光の領地」を旗揚げし関西を中心に上演活動を行う。2017年『精神病院つばき荘』が日本劇作家協会新人戯曲賞最終候補。詩人としても作品を発表し、伊藤静雄賞佳作、部落解放文学賞等を受賞。

<CAST>

山上院長・・・土屋 良太
高木・・・川口 龍
浅田・・・近藤 結宥花

推薦のことは...

「精神病院つばき荘」は「精神病院」を見つめなおすところから始まる作品です。「精神病院」をたどってその本質に向かう旅は、やがて世の中の様々な不条理に私たちを出会わせます。

原子力発電所、沖縄の米軍基地……。なぜ精神病院はなくなるのか、なぜ原発はなくなるのか、なぜ米軍基地は沖縄に集中するのか。この問いは一つの「とてつもなく大きいもの」に収斂していくのです。作者のくるみざわ氏は「精神病院」と「精神病院を成り立たせているとてつもなく大きいもの」と全身全霊をかけて戦っているかのようです。それも素手で。

決して楽に見ることのできない「精神病院」の現実と本質が展開されますが、物語の最後には祈りと希望が語られます。それは、登場人物のささやかな日常ですが、「とてつもなく大きなもの」に対抗する希望と祈りです。ぜひ、多くの人にこの演劇をみていただき、くるみざわ氏が灯す小さな希望をつないでほしいと願います。

(オリブ山病院 精神科医師・副院長 横田 泉)

沖縄公演

パレット市民劇場

(那覇市久茂地1丁目1-1 パレットくもじ9階)

10/12(土) 15:00開演(14:30開場)

10/13(日) 13:00開演(12:30開場)

チケット(全席自由):

前売り2500円 当日2900円 当事者・家族・学生1000円



問い合わせ先:「つばき荘上演実行委員会」 oken@oribuyama.org

■沖縄都市モノレール(ゆいレール)県庁前駅より徒歩3分
■バス パレットくもじ前/県庁前/沖銀本店前 より徒歩3分